

エコラベル

技術概要

食料品や日用品等の各種商品が生産・流通・販売される際に、どれくらい環境に負荷を与えているかを示しているものを「エコラベル」という。エコラベルとして代表的なものとしては、環境省の指導のもと(財)日本環境協会が行っている「エコマーク」等があり、消費者のグリーン購入(環境にやさしい商品の購入)の促進等を狙いとしている。

新都市での導入効果について

環境に配慮したい人々にとっては、エコラベルにより低環境負荷の製品を選択することができる。また、それ以外の人々にとっても、エコラベルを日常的に目にするにより、環境への意識向上のきっかけを与えることができる。

導入における課題(対応策)

エコラベルが有効に働くためには、ラベルに対する認知度を向上させることが必要。また、エコラベル表示商品が市場を形成する仕組みが必要。

学校での環境教育や行政広報、市民の環境活動等を通じてエコラベルの意識を新都市住民全体に広げていく。また、新都市で販売される商品は、エコラベルによる表示を義務付ける等の対策をとることも考えられる。

その他(導入状況・技術開発等動向・将来見込み等)

(財)日本環境協会が行っているエコマーク事業は、1989年に「特定フロンを使用しないスプレー製品」など7種類の品目を対象としてスタートしたその後、対象類型および認定商品が毎年拡大され、2002年3月末現在では、68種類の商品類型、約5,000ブランドの商品をカバーしている。

注: 各種資料により(株)エックス都市研究所作成